YIC Your Institute of Community Education
YC KOCHOだより 311 KC 令和８年(2026年)１月23日

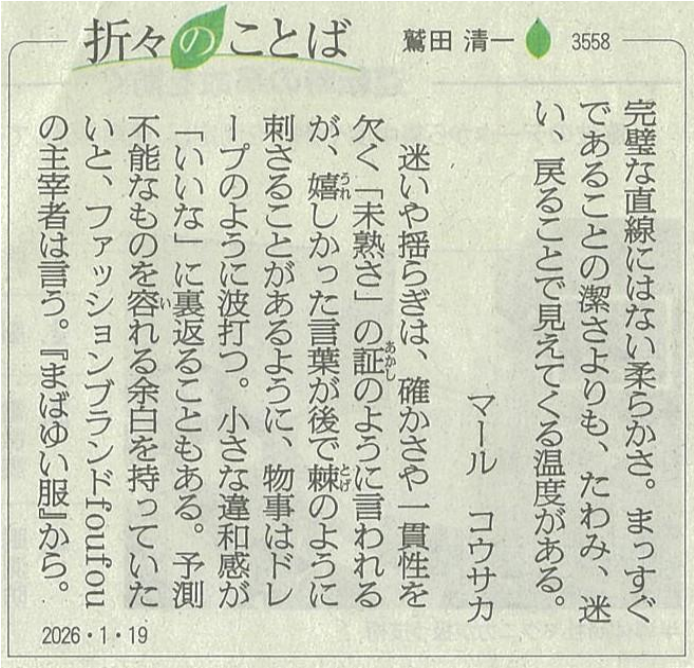
YIC 調理製菓専門学校・北九州調理製菓専門学校　須内章雅
Sunouchi Akimasa

○ ことば

しばらくぶりにピンとくるものがありましたので取り上げてみました。

中学校で風景を描こうということで、生徒を校外に“放ち”、好きなモチーフを選択して制作しているいろいろな場所をめぐってアドバイスをしていましたが、直線的なビルや道路を選んでいる生徒たちの三分の一くらいが定規を使って“書いて”いるのをよく見かけました。

まっすぐだからまっすぐに書かなければいけないという心理が働くのでしょうか、その絵はほとんどが無機質で味わいのないものになっていました。私は少しぐらい曲がった線でもいいから迫力とか伸びやかさとか自分が感じたものを“描いて”ほしいと願っていました。



折々のことば　鷲田 清一　3558

完璧な直線にはない柔らかさ。まっすぐであることの潔さよりも、たわみ、迷い、戻ることで見えてくる温度がある。

マール　コウサカ

迷いや揺らぎは、確かさや一貫性を欠く「未熟さ」の証のように言われるが、嬉しかった言葉が後で棘のように刺さることがあるように、物事はドレープのように波打つ。小さな違和感が「いいな」に裏返ることもある。予測不能なものを容れる余白を持っていたいと、ファッションブランドfoufouの主宰者は言う。『まばゆい服』から。

2026・1・19

右のことばの中から私は「予測不能なものを容れる余白をもっていたい」というところが印象に残りました。同じ記事を読んでも違うことを感じられる方もいらっしゃるでしょう。可能なら違う感じ方と出会ってみたいとも思います。

たより 298 号で引用したことばの中の～正しい選択にこだわりすぎる人は、思いと違うと選択の誤りのせいにしがちだが、「選択の後の自分を肯定する力が弱いだけ」～ということと少し関連するようにも思いましたが、皆さんはどのように感じられたでしょうか？

もう一つ、「ドレープ」ということばを知らなかったので、AI による概要を調べてみると次の様な説明がありました。一つ賢く（？）なりました。

ドレープとは、布を垂らしたときにできる、ゆるやかで優雅なヒダやたるみのことです。ファッションではドレスやスカートなどによく用いられ、柔らかく流れるような美しいシルエットを作り出します。インテリアでは厚手の遮光カーテン（ドレープカーテン）を指し、ファッションとは別に**「布で覆う」**という意味合いもありますが、基本は「布のたるみ」を指します。

○ 自校自賛

KC 校の屋上ではリュウノヒゲをプランターで育てています。このたび水やりをしていたら実ができているのを発見しました。葉に隠れていて今まで見つけられなかったのですが、ちょっとのぞいているきれいなブルーは美しいですね。色の名称でいえばウルトラマリンかコバルトブルーという感じでしょうか。冬の寒さ夏の暑さにも負けずに生きています。

右側の看板は YC 校でカフェを開店したときのものです。毎回力作です。

今回の裏話です。開店する日の朝、この看板が分解していたので私は急遽修理をしました。間に合ってよかった。